

2023.10.17～10.19 兵庫県洲本市、神河町、加西市、姫路市
伊豆市議会教育厚生委員会 行政視察 復命書

10 番 間野みどり

今回の行政視察は兵庫方面4ヶ所を訪問しました。
天候に恵まれ穏やかな気候の中、関係者の協力で有意義な視察が出来ました。

1つ目に伺った洲本市の「ウエルネスパーク五色」では地域に貢献する再生可能エネルギー事業・竹チップを主燃料とするバイオマスボイラーの整備を中心に視察しました。

洲本市は、淡路島の真ん中に位置し、総面積は182.38平方キロメートル、淡路島の30.6%を占めています。

人口は、42,000人余り、高齢化率36.6%と聞きました。

穏やかな気候に恵まれ、私にはエーゲ海に似た雰囲気を感じる市の様子でした。

市政の概要によると、議会でタブレット端末の導入を進めていますし、前向きな姿勢を感じました。

竹チップを主燃料とするバイオマスボイラーを、ウエルネスパーク五色の混浴施設「ゆ〜ゆ〜ファイブ」に設置する事は、放置竹材の間伐管理になり、有害鳥獣による農業被害の軽減、美しい里山の保全にもつながるとのことでした。また、既存ボイラーの重油消費の半減によりCO2排出削減にもつながると説明を受けました。

もう一つは、龍谷大学との連携による再生可能エネルギー事業の推進の件ですが、10年を迎え、すばらしいと思いました。

感想としては、多くの問題に対し、良い方向を見出す努力をしているなど感じ取りました。

また、学生達との交流にはリーダー的役割の存在が必要であり、それが市職員であると、より進みやすいのかなと感じました。

議会だよりの中の一般質問では、2人程の議員から“「牛一頭買い」について徹底した調査を”との質問があり、その土地ならではの課題の複雑さを知りました。

2日目は、神河町 **Resort** によん in 神河の廃校跡地活用についての視察でした。

神河町は、人口 10,616 人程の町でした。自然豊かに、老後はこんな穏やかな所で過ごしたいと思うようなあたたかい雰囲気でした。

この **アミーズ 24** という会社は、メンテナンス会社が前身で暮らしの“困った！”を解決する会社として、介護事業、設備事業、環境衛生事業を展開している施設でした。

視察したこの **Rrsort** によん in 神河は、サービス付き高齢者向け住宅、終の棲家という設定でもあり、純和風 22 部屋で展開していました。広々とした空間と自然と、やさしい職員に恵まれ、生活している方々の笑い声が聞こえ、良い環境だなと思いました。

3つ目の加西市、子育て支援の取り組みについては、人口 42,000 人程、第2次世界大戦が激化した頃、パイロット養成を目的に旧日本軍の飛行場があり、戦争のにおいがする悲しい部分もある町でした。

私たちは、「ただの町・加西」ということを視察しました。

5つの無料化を実施しています。①保育料の無料化、②給食費の無料化、③医療費の無料化、④オムツなどの無料化、⑤病児病後児保育の無料化をうたい、住み続けたい安心して住める町を強くアピールし、実践しているのがわかりました。

また、働く親のため「アスモ」室内型子ども遊戯施設があり、子どもを預けながら、ワーキングスペースがあるところは魅力的でした。

また、この5つの無料化は全てふるさと納税で賄っているとの説明に驚きました。

個別のサービスは、どの市町でもやっているのが現状ですが、市民に寄り添っている工夫の1つとして、商業スペースに取りやすくパンフレットを置いた工夫が見られ、参考になりました。

3日目、4つ目の姫路市立美術館は、戦前は陸軍の施設として、戦後は姫路市役所として長く使われ、1983年に美術館となったとのことでした。

美術館として使うには、改築が大がかりだと説明を受けました。

静かな佇まいで落ち着いた空間で、人も少なかったので、雇用について聞きました。事務所に公務員が少し、後は派遣の方たちで運営しているとのことでした。

今回の行政視察は、その市、その市、私たちと同じ少子化、高齢化、移住推進と悩みがあり、それぞれの目的に向かい合って努力している事を感じました。

我が市も少しずつ参考になるところもありそうです。

また、関西では戦争の名残、震災の名残が、まだなお多くあり、人々はそれに向き合いながら生活していると感じました。

今回の視察で、実際に見たり、聞いたりして学んだ事を、これからの議員活動に活かしていきたいと思いました。